

<調査結果報告>

防災対策関連支出が今年増えた人は3割台半ば

～三重県民の防災意識の変化に関する調査～

三重県内の事業所で働く人を対象に、「家庭での防災対策への支出額の変化」などから防災意識の変化について調査した結果を報告します。ご回答いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

【担当】株式会社百五総合研究所 地域調査部 谷ノ上（たにのうえ）
三重県津市岩田 21 番 27 号 TEL059-228-9105、080-6961-5358

【調査概要】

- 調査期間：2024 年 11 月 12 日～11 月 19 日
- 調査対象・回答数：三重県内の事業所で働く 207 人

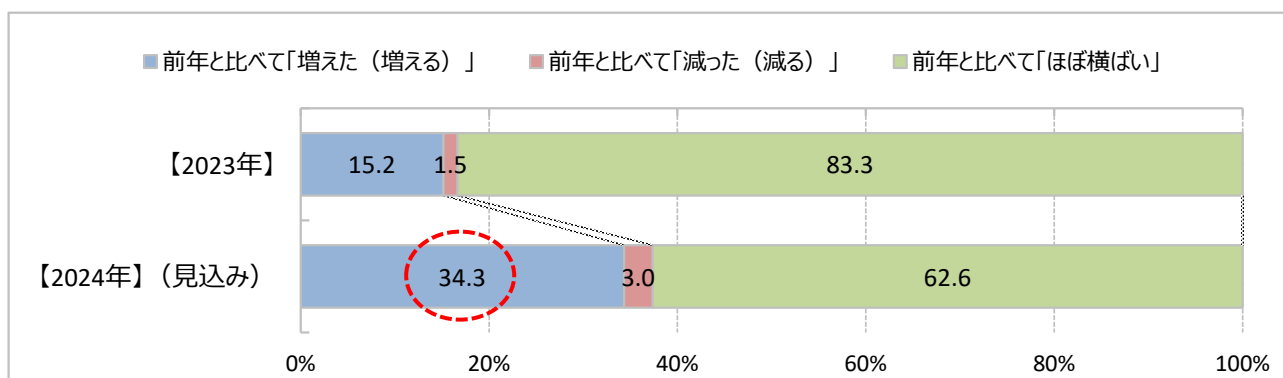
【調査結果】

◆防災関連支出「前年比増」は 34.3%。「1 万円以上」は 6 割強、「3 万円以上」は 4 分の 1。

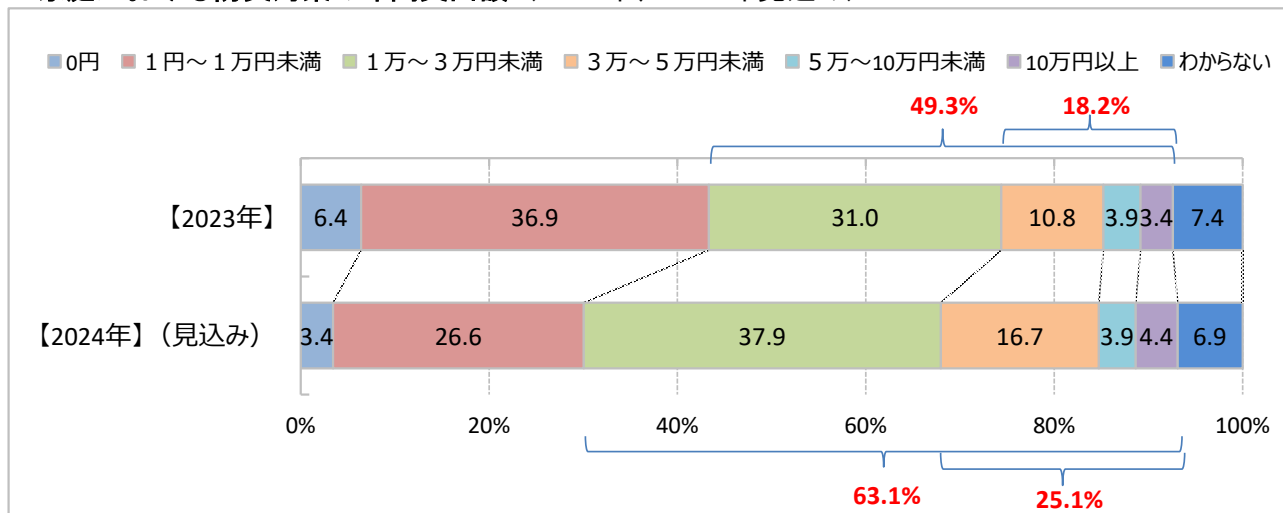
家庭における防災対策の年間支出額について、「前年と比べて増えた（増える）」と回答した人の割合は、2024 年（見込み）は 34.3%となり、23 年の 15.2%より約 2 割も増加した。

年間支出額をみると、「1 万円以上」使った人は 23 年の 49.3%から 24 年は 63.1%に、「3 万円以上」では 23 年の 18.2%から 24 年は 25.1%に増えた。「10 万円以上」使った人も 24 年で 4.4%おり、24 年は防災対策のために支出した人や金額が大きく増えたことがわかる。

■家庭における防災対策の年間支出額の変化（2023 年、2024 年見込み）



■家庭における防災対策の年間支出額（2023 年、2024 年見込み）



（※）四捨五入の関係で内訳の集計値と記載の合計値が一致しない場合がある。

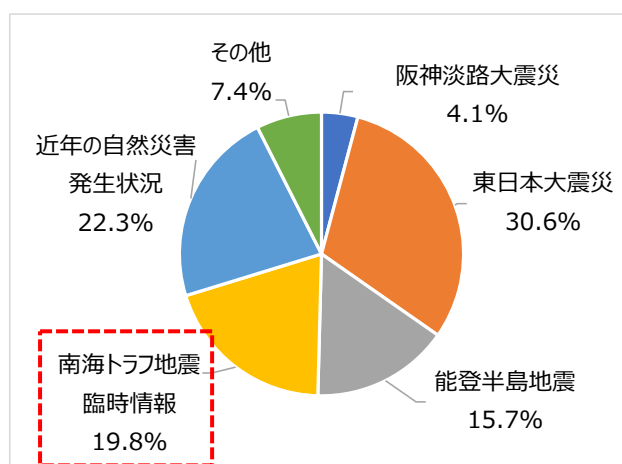
◆「南海トラフ地震臨時情報」がきっかけ約2割。発災時の備えは手薄。

防災対策を始めたあるいは支出額が増えたきっかけとして、今年8月に発表された「南海トラフ地震臨時情報」を挙げた人は19.8%と約2割を占めた。三重県を含むエリアでの大地震の発生リスクを身近に感じ、対策をしてこなかった人の防災行動を促したという意味において、臨時情報の発表には一定の効果があったといえる。「能登半島地震」の15.7%と合わせると35.5%となり、3割台半ばの人が、今年に入って防災対策に着手あるいは対策を手厚くしたことになる。

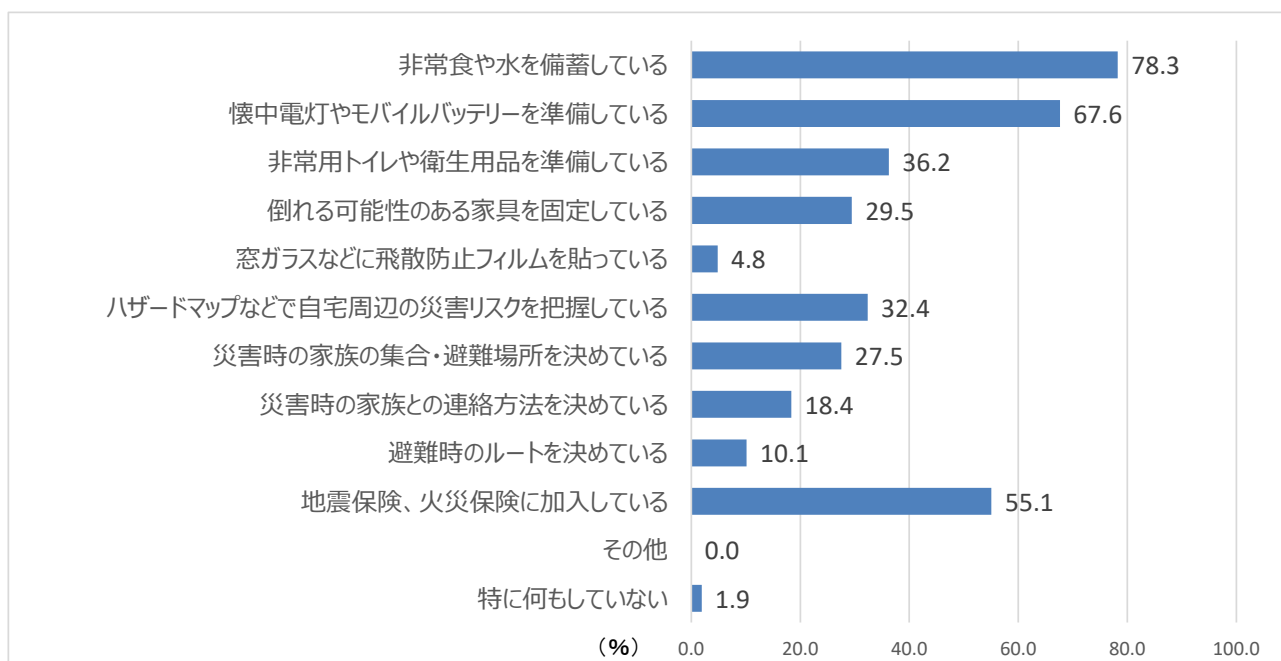
ただ、家庭での備えの内容についてみると、「非常食や水を備蓄している」、「懐中電灯やモバイルバッテリーを備蓄している」などは約7～8割と高い割合を占めたものの、これらは生き延びた後の生活の備えであり、命を直接的に守る行動につながる「倒れる可能性のある家具を固定している」や「ハザードマップなどで自宅周辺の災害リスクを把握している」は3割前後にとどまった。また、「災害時の家族の集合・避難場所を決めている」や「災害時の家族との連絡方法を決めている」など、家族の安否確認につながる決め事も約2～3割にとどまった。

まずは、発災時に身を守り、家族を含めて適切に避難行動できるための備えをしっかりと進める必要がある人が多いといえる。

■防災対策を始めた・支出額が増えたきっかけ



■現時点における家庭での自然災害の備えの内容（複数回答）



以上